

I'm るうてる！ You 知ってる？ 私、言うてる！ 君、届いてる？

～人材確保プロジェクト始動～

プロジェクトリーダー 中島香奈

これまで活動を続けてきた「人材確保・育成委員会」から「人材確保」を独立させたプロジェクトが今年度から開始します。（プロジェクト名称未定）

今までは、問い合わせのあった求職者や実習生に向けて「るうてるホームで働きたい!」と思ってもらえるようなアプローチに力を入れてきましたが、このプロジェクトではもっともっと裾野を広げて、るうてるホームを知らない学生や一般の方々にも、まずは名前と存在を知ってもらえるように、そしてそこから興味をもってもらえるような仕組みを考え、採用に向けた母集団形成を目指して活動をすすめます。

具体的には、学校教職員との関係を強化し、大学や専門学校にゲストスピーカーとして出講できる人材を増やします。また、実習やインターンシップの受け入れを積極的に行き、この仕事の魅力ややりがいを「現場の生きた声」として発信していきます。結局のところ、「自分の言葉で想いを語ることでできる人材育成」ということに尽きると考えています。

最近の求職者は SNS などを駆使して求職活動を行っています。まずは Instagram や Twitter、ホームページの定期的な更新を通じて、求職者の心に響くコンテンツやアプローチを考えながら、タイムリー

な情報発信に取り組んでいきます。他にもいっぱいアイデアを出していきます。楽しみにしててください!

プロジェクトのメンバーは、「やってみたい!関わってみたい!」という職員 5 名でスタートしますが、たくさんの仲間の協力を得ながら「アメンバー」のように拡げていく予定です。期間も 2 年間限定ではありますが、その後も形を変えながら、るうてるホームの職員だけにとどまらず、サービスを利用される方々、入居者の方々や地域の方々も巻き込んでいくことと思います。

熱い情熱とそれに勝る遊びゴコロを爆発させて、楽しみながら励みます。るうてるホームに興味があれば、いつでもお問い合わせください。全力でお出迎えいたします!



後援会ご献金感謝報告

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの献金総合計は、3,784,954 円ございました。多額のご献金に感謝申し上げます。

今後とも皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



社会福祉法人

るうてるホーム 法人報

聖書の教えに従って
お客様を敬い、
お仕える

るうてるケアの原点

るうてるホームはこの 10 月で移転 10 年の節目を迎えます。一体型の建物となって 10 年。「支えられつつ、支えて」という「るうてるケア」を継承し、それを質的にさらに高めてゆきたいと念じています。COVID-19 も落ち着いてきましたので、夏には四年振りの職員交流会を、そして秋には地域のためのフェスタ等を計画しています。この三年半に入職した職員はマスクを外した先輩の顔をほとんど見たことがありません。新型コロナウイルスは私たちから相互交流の場や創造的な機会を減じてきました。今原点に戻って大切な交流関係を再構築してゆきたいのです。

私自身は対人関係の基本をマルティン・ブーバーの『我と汝』（1923）から学んできました。これまで私が牧師やチャプレンとして関わってきた、いのちの電話や牧会カウンセリング、ホスピスでのターミナルケア、日本ルーテル神学校や上智大学グリーンケア研究所での CPE（臨床牧会教育）やグループワークなど、すべての原点はそこにあります。ブーバーの哲学は「対話の哲学」として様々な領域で大きな影響を与えてきました。今は岩波文庫や講談社学術文庫などで入手できますので、対人援助職に関わる方々、人間関係に関心をお持ちの方々にお勧めします。

そこではこの世界は人間の取る二つの態度に応じて二重であると洞察されています。一つは世界に対して根源語〈われ - なんじ〉を語る態度、他は根源語〈われ - それ〉を語る態度です。前者は自己の全存在を用いて親しく相手に「あなた」と呼びかける人格的な関係をもたらしますが、後者は他者をどこまでも自分の経験・利用の対象（「それ」）として見てゆきます。前者は「今ここ」を大切にする対話的な態度、後者は独白的態度でもある。ブーバーは根源語〈われ - なんじ〉を語った典型として仏陀、ソクラテス、イエス、ゲーテの四人を挙げ、〈われ - それ〉を語った者としてナポレオンを挙げています。悲しいことに、時間の経過の中で〈なんじ〉関係は必ず〈それ〉という過去の記憶になってしまいますが、ブーバーは言います。「真実の生とは出会いである」と。ブーバーの際立った特徴は、個々の〈われ - なんじ〉の出会いの延長線上に向こう側から親しく呼びかけてくる「永遠の〈なんじ〉（神 / Something Great）」の存在がある点にあります。

向こう側からの声に耳を澄ませながら、私たちも今ここを大切にしていきたいと思います。



理事長・チャプレン
大柴 譲治

2022 年度事業報告・決算と 2023 年度事業計画

常務理事 石 倉 智 史

2022 年度は第 3 期中期経営計画の 2 年目です。組織強化を目的として事業部間で部長の異動を行い、引き続き組織活性化に向けた取り組みを行ってきました。

長年の課題であった給与規程の全面改定をし、人事評価に関する規程等を新たに設けて、4 月より導入しました。大幅な刷新をしたため、年度中は意見集約を中心に制度の浸透に努めてきました。また積極的な業務改善と生産性向上のための介護リフトやタブレットを活用した介護記録ソフトの導入、看護師の夜間オンコール外注への検討などをすすめてきました。

新型コロナウイルス感染症の市中での拡大により、11 月には特養でクラスターが発生し、在宅サービスも複数の感染者により事業を休止することもありましたが、事業所間の積極的な協力により、影響を最小限に留めることができました。しかし、このような状況にあっても利用ニーズには積極的に応え、過去の実績を超える事業やケアの質を下げないチャレンジを怠らない事業など、チームワークの向上が見られた一年でした。

財務状況は、水光熱費や食材費、ガソリン代などの高騰が相次ぎ、予算の見直しを余儀なくされましたが、府や市などの物価高騰対策補助金を一部充当し、経常増減差額率は 4.3%となりました。

2023 年度は第 3 期中期経営計画の折り返し年にあたり、改めて私たちのビジョンとミッション

を全職員で共有し、事業活動すべての面においてイノベーションを起こすべく、様々なチャレンジを行っていきます。

特に経営基盤安定化の面において、2024 年度からの地域区分変更にもともなう減収見込みは避けることのできない脅威です。備えるべきは、経営にさらなるスピード感をもって取り組む姿勢と、これまでにない意識改革をもとにした組織力、生産性の向上です。業務負担軽減のための ICT 機器や介護機器の導入をはじめ、事業環境評価を継続し、具体的な解決に向けた取り組みを行います。大きなところでは、公益財団法人 JKA より特殊介助浴槽整備の補助をいただけることとなり、秋ごろには入居者の方々への入浴支援がより充実することが期待されています。

そして、自律性かつ信頼性の高い事業運営を目指すため、確固たる職業倫理と質の高い人間関係による専門的価値の醸成を通じて、社会福祉法人としてのブランド化をすすめていきます。そのためにも適切な人員体制の確保が急務となっています。人材獲得については年々困難さが増しているなか、実習生の獲得や職場体験の受け入れなど、積極的な広報を通じて就職へのマッチングを図っていきます。特に今年度からは採用市場の現状の理解と分析、広報に特化したプロジェクトを立ち上げ、既存の委員会との連携を強化した取り組みをすすめていきます。

2022年度決算概況

(2023年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	389,362	流動負債	90,574
現金預金	291,946	事業未払金	22,249
事業未収金	90,919	短期設備資金借入金	51,312
未収補助金	438	前受金	118
立替金	1,591	賞与引当金	16,895
前払費用	4,468	固定負債	1,005,765
		設備資金借入金	965,540
		退職給与引当金	40,225
固定資産	1,816,408	負債の部合計	1,096,339
基本財産	1,346,878	純資産の部	
土地	534,814	基本金	815,533
建物	812,064	国庫補助金等特別積立金	261,016
その他の固定資産	469,530	その他の積立金	188,616
建物付属設備・構築物	132,225	次期繰越活動増減差額	△ 155,734
車両運搬・器具備品等	7,468	(うち当期活動増減差額)	28,874
投資有価証券	100,000		
積立資産等	228,842		
その他の固定資産	995	純資産合計	1,109,431
資産の部合計	2,205,770	負債及び純資産の部合計	2,205,770

事業活動計算書の要旨

資金収支計算書の要旨

(自)2022年4月1日 (至)2023年3月31日

(単位:千円)

科目		金額	科目	金額
サービス活動増減の部	介護保険収益	497,290	介護保険事業収入	497,290
	老人福祉事業収益	80,137	老人福祉事業収入	80,137
	就労支援事業収益	401	就労支援事業収入	401
	障害福祉サービス事業等収入	83,391	障害福祉サービス等事業収入	83,391
	医療事業収益	4,574	医療事業収入	4,574
	その他事業収益	221	その他事業収入	221
	寄付金収益	3,785	寄付金収入	3,785
	サービス活動収益計	669,799	受取利息	570
	人件費	436,984	その他収入	1,955
	事業費	89,450	事業活動収入計	672,324
	事務費	58,637	人件費	431,024
	就労支援事業	1,138	事業費	89,450
	利用者負担軽減	0	事務費	58,637
	減価償却費	58,774	就労支援事業	1,138
	国庫補助金積立金取崩額	△ 9,135	利用者負担軽減	0
	サービス活動費用計	635,848	支払利息	7,347
	サービス活動増減差額	33,951	その他支出	84
	サービス活動外収入	2,525	事業活動支出計	587,680
	サービス活動外支出	7,492	事業活動資金収支差額	84,644
	サービス活動外増減差額	△ 4,967	施設整備等収入	-110
経常増減の部	経常増減差額	28,984	施設整備等支出	52,623
	特別収益	-110	施設整備等資金収支差額	△ 52,733
	特別費用	0	その他活動収入	2,712
	特別増減差額	△ 110	その他活動支出	7,980
	当期活動増減差額	28,874	その他活動資金収支差額	△ 5,268
	前期繰越活動増減差額	△ 179,608	当期資金収支差額	26,643
	当期末繰越活動増減差額	△ 150,734	前期末支払資金残高	340,353
	次期繰越活動増減差額	△ 155,734	当期末支払資金残高	366,996